

<別紙> 情報提供様式

①事例名	
教頭マネジメント支援員を活用した働き方改革の推進	
②学校名	
東近江市立能登川南小学校	連絡先 0748-42-0148
③取組分野(複数選択可)	
☒ 副校長・教頭の負担軽減に関する取組 (学校経営骨太モデル事業、副校長・教頭マネジメント支援員の活用等)	
④直面していた課題(取組前の様子)	
・本年度、校区再編に伴う通学区域変更を開始した。また、本年度から2年間かけて行われる校舎大規模改修工事に伴う様々な業務が毎日必須になった。さらに、近隣からの苦情への対応が続く等、多くの課題が山積み、教頭の超過勤務時間の短縮が図れず、教頭をはじめ職員の教職員全員が多忙感と切迫感に悩まされる状況にあった。	
⑤在校等時間の縮減に向けた具体的な取組内容	⑥参考となる写真や資料を添付
教頭マネジメント支援員の導入 ・業務が多岐に渡る小学校教頭の支援に当たるため、主として以下のよう内容について軽減できるよう仕分けを行い、効果の検証を行った。 ①大規模改修に向けての諸会議へ教頭と共に参加。各教室のレイアウトや購入備品等の検討を行う。 ②保護者や外部との連絡調整。 ③教頭業務としての資料や提出物等の作成。 ④各学年・学級からの通信、回覧文書の確認。 ⑤施設管理、施設修繕等に係る業務の支援。 ⑥個別の支援が必要な児童や保護者、来客への対応。 ⑦担任の出張や欠席による補欠授業への支援。 <u>取組のポイント</u> ・複数対応と報連相の徹底に努め、主担当が不在でも業務が滞らない体制に努めた。	○「年次有給休暇取得日数の前年度比較」 教頭のR5年実績:3日+6時間 → R6年実績:5日+6時間(2日増) 教頭のR5年特休取得:6日 → R6年特休取得:6日+12時間(12h増) 一般教員のR5年特休取得平均:13.7日 → R6年平均:14.5日(0.8日増) ○「時間外在校等時間の前年度比較」 教頭のR5年実績(平均時間数) 1学期110時間、2学期108時間、 3学期111時間(うち土日休107h) 教頭のR6年実績(平均時間数) 1学期129時間、2学期127時間、 3学期147時間(うち土日休241h) 一般教員のR5年実績(38名平均時間数) 1学期59時間、2学期59時間、 3学期50時間(うち土日休27h) 一般教員のR6年実績(34名平均時間数) 1学期52時間、2学期56時間、 3学期48時間(うち土日休30h)
⑦取組の成果	
・「年次有給休暇取得日数が昨年度より増加した」 前年度との比較で教頭の業務量は格段に増えているのに対して、休暇を取得する日数が増えた。 ・「教職員の時間外在校等時間が昨年度より減少した」 業務が拡大した分、教頭の時間外を減らすことは困難であったが、一般教員全体では合計1000時間以上の改善がみられた。これは、教頭が以前よりも職員室に居られる時間が増えたことで、担任が問題を抱えた時にすぐに相談に乗ることができたり、校内連携がとりやすいように指導支援ができたこと、担任の負担感が減るとともに、職場全体の働きやすさが増したことがうかがえる。 ・「学校評価の「仕事の効率化や勤務時間の縮減等、働き方改革に取り組めたか」の項目等において改善できた」 主体的に取り組めたかどうかの回答では、肯定的評価は7%の改善がみられたものの、まだまだ低い。しかし、「よりよい組織づくりをめざして、同僚性を高める働きかけや声かけができた」の回答は96%、学校運営についての項目「各組織はうまく機能した」89%、「報告・連絡・相談がしっかりできていた」93%と、いずれも高い評価を得た。自由記述では、「教務部の先生のフォローや声かけがあり、助けてもらった部分大きい」という回答があった。 <u>成果のポイント</u> 教職員のつながる意識の高揚が、働きやすい職場環境を生む。教頭が職員室や教室へ出向くことが可能な時間が増え、教頭が機会を捉えて指導支援を行ったり、教員が教頭へすぐに相談できたりするような本来あるべき体制が整ったことによって、職場全体のコミュニケーション力が高まり、働きやすい環境が生まれ、その結果、教員全体の時間外在校時間も短縮することができたと考える。	